

第二次富里市産業振興ビジョン（素案の概要）

産業振興ビジョンとは

- 平成28年4月、富里市の産業振興における基本理念を定めた「富里市産業振興基本条例」を制定しました。
- 本条例第8条において「、産業の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため事業者及び経済団体と協力して産業ビジョンを定めなければならぬ。」とされています。
- 本条例第9条において、「産業振興に必要な事項を調査審議するため富里市産業振興推進会議を置く。」とされており、事業者、経済団体の関係者、公募による者、有識者などで構成する富里市産業振興推進委員により構成されています。

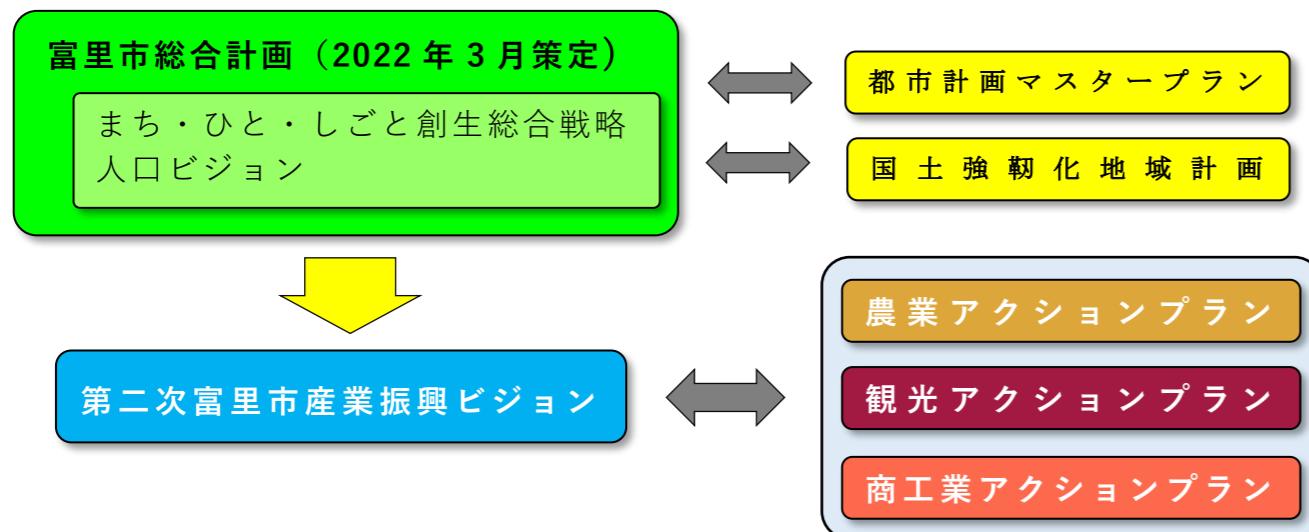
1. 産業振興ビジョンの策定の趣旨・背景

1-1 産業振興ビジョン策定の目的

- 平成30年3月に富里市産業振興ビジョン（以下「第一次ビジョン」）を策定し、各種産業振興施策を推進してきました。
- 計画期間については、最上位計画である富里市総合計画の後期基本計画の計画期間に合わせ平成30年4月から平成33年3月（令和3年3月）としました。

1-2 産業振興ビジョンの位置付けと計画期間

本ビジョンは「富里市総合計画」（計画期間：令和4年度～13年度）を実現するための個別計画として位置付けられるものです。



2. 富里市の産業の課題

- 課題の抽出にあたっては、第一次ビジョンの計画期間において、各施策の実績について、毎年度、富里市産業振興推進委員会の評価をいただき、意見書が提出されています。
- この評価、意見を参考に現状や課題等の分析を行いました。

2-1 農業における課題

【課題1】経営の安定化

機械化による省力化や生産性の向上を図るとともに、農業後継者の育成や新規就農希望者の掘り起しと支援を図り、農業の活性化を図る必要があります。

【課題2】富里のすいかを守る取組

市の特産物である「富里のすいか」については、機械化が困難であることや、高齢化や後継者不足による生産者、作付面積とも減少傾向にあります。すいか条例を基に、市、生産者、事業者及び市民が協力して富里のすいかを守る取組が必要となります。

【課題3】有害鳥獣による被害対策

有害鳥獣による直接の農作物被害と併せて、CSF（豚熱）など家畜伝染病予防の観点からも有害鳥獣に対する対策が必要です。

2-2 商工業における課題

【課題1】ICT化、雇用機会の創出、経営基盤の安定化・強化

- 企業のICT化は、販売機会の創出や業務の効率化、人手不足の解消だけでなく、多様な働き方を受容することにも繋がり、就労・雇用機会の創出や就業環境の改善といった面からも市内事業者が積極的に導入し、利活用できるサポートが不可欠です。
- 台風等の自然災害や感染症の流行などにより不測の事態が発生しても、重要な事業・業務を中断させない、又は中断しても可能な限り短時間で復旧させるための方針、体制整備などの取組が必要となります。



【課題2】人材不足、事業継承、創業支援

- 本市の生産年齢は毎年減少し、高齢化率が上昇しています。人口構造の変化を踏まえると、中長期的に人材不足に陥る企業が多くなると考えられます。
- 経営者の高齢化も進む中で中小企業・小規模事業者の事業承継が大きな問題となっており、円滑な事業承継はもちろんのこと、事業者の新陳代謝を活発にし、創業や第二創業を促進することが不可欠です。

【課題3】企業誘致

- 成田空港の機能強化に伴い、企業立地ニーズを受け止めるための産業用地を確保することが不可欠です。
- 市街化区域の用途地域の見直しに伴う土地利用の高度化や市街化調整区域における土地利用方針及び地区計画ガイドラインに即した土地利用を実現するため、まちづくりを視野に入れた積極的な企業誘致が必要となります。

2-3 観光における課題

【課題1】富里の強みを活かす観光

地域の資源を改めて見つめ直し、本市の強みである自然と四季折々の豊かな「農」を生かした独自の観光振興に取り組んでいくことが不可欠です。

【課題2】地域資源の発掘・磨き上げと活用

一度来た来訪者からリピーターを創出できるよう、地域資源を最大限に生かし、新たな富里観光のコンテンツを検討する必要があります。

【課題3】観光人材の発掘と育成

令和4年度オープン予定の本市ではじめてとなる観光・交流拠点（仮称）「末廣農場」が来訪者の受け皿となり、ガイダンス機能を発揮し、地域の観光に繋げることが求められることから地域に精通した人材の確保が求められます。

2-4 成田空港の機能強化を見据えた課題

成田空港の機能強化にあたり策定された「成田空港周辺の地域づくりに関する『実施プラン』」によると、航空機発着回数50万回、取扱旅客数7,500万人に対応するための施設等の機能強化を図っていく場合には、空港内従業員数は、現在の約4.3万人から約3万人の増加となる約7万人の人材が必要になるとされています。

【課題1】空港の機能強化を支える人材の育成

空港の運営に欠かせない多様な業務に携わる人材を育成し輩出することが必要になります。

【課題2】空港の機能強化に伴う空港関連企業の誘致

企業立地ニーズを受け止めるための産業用地の確保と積極的な企業誘致を推進することが必要となります。

【課題3】空港を支える地域の機能強化

「地域の発展」と「空港の発展」を繋げるための「成田空港周辺の地域づくりに関する『実施プラン』」に掲げる各産業に対する施策を着実に推進することが必要になります。

2-5 課題から見る第二次ビジョン策定の視点

(1)第一次ビジョンからの継承

①創ること・繋ぐこと・培うこと ②成田空港との共生・共栄

富里市の産業の最大の課題を「承継」とした第一次ビジョンのキーワードを継続とともに、成田空港との共生・共栄について継続して視点とします。

(2)第二次ビジョンにおける新たな視点

①成田空港の機能強化

成田空港の発着枠拡大に伴う機能強化を見据え、空港関連企業の立地ニーズを確実に受け止めるための産業用地の確保や空港の運営に欠かせない多様な業務に携わる人材を育成し輩出します。

②市街化調整区域への企業誘致

「市街化調整区域における土地利用方針及び地区計画ガイドライン」に即した土地利用を積極的に誘導するため、企業誘致を積極的に実施していきます。

③すいか条例の推進

特産品であるすいかを守るために、市、生産者、事業者、市民がお互いに協力して、富里のすいかの魅力を全国に発信します。

④市街化区域内の土地利用の高度化

市街化区域の用途地域の見直しにより、望ましい市街地の形成を図る環境が整ったことから、市街化区域内への各種業務機能の誘導や未利用地の高度利用などの実現を視野に入れ計画を推進します。

⑤SDGsによる視点

持続可能な未来を実現するために、SDGsによる視点を取り入れ推進します。



3. 産業振興の目標及び施策の体系

3-1 産業振興の基本理念及び基本目標

(1) 基本理念

- 第一次ビジョンは、富里市総合計画後期基本計画におけるまちづくりの目標であった「みんなが活躍し、農・商・工とともに輝くまち」を実現することを目標とし、「『つくる、つなぐ、つちかう』富里の産業 今、次代のためにできること」をタイトルとしていました。
- これらの目標やタイトルに基づき各種の施策を展開し、評価をしてきたことから、第二次ビジョンでは、第一次ビジョンのタイトルを基本理念とし、この基本理念を実現するための各産業の課題に対し基本目標を設定するとともに施策の方針を示すものとします。

**【基本理念】 「つくる、つなぐ、つちかう」富里の産業
今、次代のためにできること**

(2) 基本目標

- 第一次ビジョンでは、それぞれの産業ごとに顕在化する課題に加え、労働者の高齢化という共通の問題により、富里市の産業は総じて過渡期を迎えており、この過渡期における最大の課題が「承継」としております。
- 事業の承継には様々なスタイルが存在します。会社の場合には後継者に事業を引き継ぐことを事業承継といいますが、今を活かして次代を生きるための継続手段として捉えており、キーワードを「創ること」、「繋ぐこと」、「培うこと」としていました。
- 現在の本市でも各産業の最大の課題は「継承」が最大の課題と捉え、第一次ビジョンのキーワードであった「創ること」、「繋ぐこと」、「培うこと」を引き継ぎ、この3つを基本目標と設定します。
- さらに、成田空港の機能強化を見据えた地域の発展という視点を踏まえ、「成田空港との共生・共栄」を4つめの基本目標とします

○基本目標1 創ること

○基本目標2 繋ぐこと

○基本目標3 培うこと

○基本目標3 成田空港との共生

3-2 産業振興の基本目標及び施策の方針

4つの基本目標に対し、それぞれ施策の方針を設定し、各アクションプランで施策に対する事業を実施していきます。

目標1 創ること

「創ること」は、承継の対岸にあるようですが、例えば、会社や農地を引き継いだ子や孫が、新たな産業を起こすことも承継の姿であり、創業は承継の手法として位置付けることができます。

【施策の方針】 ①創業・就農の支援

②富里ブランドの育成

③地域資源の掘り起し

④企業誘致

基本目標2 繋ぐこと

「繋ぐこと」は承継と同じです。ただし、後継者問題などにより廃業という選択肢を意識せざるを得ない状況を解消するためには、第三者による承継なども視野に入れる必要があります。

【施策の方針】 ①後継者の育成

②事業の継承

③人材の確保・育成

④各産業の連携

基本目標3 培うこと

「培うこと」は、今ある富里の重要な産業を未来に伝えながら、「ひと」や「もの」を作り、育てることにより、それぞれの産業の成長・発展を図り、「富里を支えるしごと」のライフサイクルの確立を目指します。

【施策の方針】 ①経営の安定化・強化

②市内企業の振興

③地域資源の強化

④交流人口の拡大



基本目標4 成田空港との共生・共栄

- 本市の基幹産業である農業の振興と、都市化の推進はお互いを尊重しながら取り組む必要があります。また、成田空港と隣接することで生じる多くの恩恵や問題を考えながらのまちづくりの視点は大変重要です。
- 成田空港の機能強化を見据えた地域の発展という視点も加え、成田空港周辺の地域づくりに関する「実施プラン」に基づく地域振興の実現を目指します。

- 【施策の方針】 ①新たな産業用地の創出 ②企業誘致（再掲）
③人材の確保・育成（再掲） ④市内産業の振興

3 - 3 第二次ビジョンの体系

第二次ビジョンの基本理念、基本目標、施策の方針を体系に表すと下図のとおりとなります。

【基本理念】

「つくる、つなぐ、つちかう」富里の産業 今、次代のためにできること



農業アクションプラン 商工業アクションプラン 観光アクションプラン

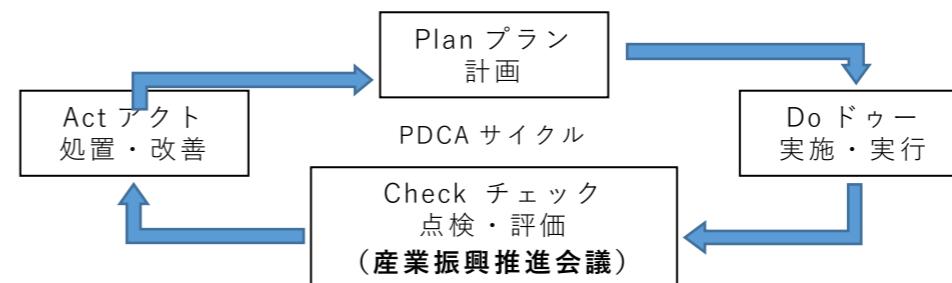
4 . 計画の推進

4 - 1 計画の推進体制

富里市産業振興基本条例に定められた産業振興の基本理念に基づき、事業者、経済団体、市が連携し市民の理解と協力の下に、産業振興策を推進していきます。

4 - 2 計画の点検・評価

毎年、産業振興推進会議により、各アクションプランに基づき実施した事業の点検・評価・検証を行います。



5 . 産業振興ビジョン策定までのスケジュール（令和3年度）

5月中旬 【府内】施策に対する令和2年度事業実績取りまとめ

6月18日 【産業振興推進会議】令和2年度取組実績について説明・評価依頼

8月上旬 【商工観光課】委員評価の取りまとめ及び課題、意見とりまとめ

8月下旬 【産業振興推進会議】第二次ビジョン（素案）について委員への意見依頼

10月中旬 【産業振興推進会議】委員の意見を踏まえた第二次ビジョン（素案）を提示

11月中旬 【産業振興推進会議】第二次ビジョン（最終案）を提示

12月 【議会への説明】第二次ビジョン（最終案）について

1月 パブリックコメントの実施

3月 第二次産業振興ビジョン策定